

北朝鮮から発射された弾道ミサイルが日本に飛来する可能性がある場合における全国瞬時警報システム（Ｊアラート）による情報伝達について

内閣官房国民保護ポータルサイト
〔弾道ミサイル落下時の行動について〕から抜粋

北朝鮮から発射された弾道ミサイルが日本に飛来する場合、弾道ミサイルは極めて短時間で日本に飛来することが予想されます。仮に北朝鮮から発射された弾道ミサイルが日本に飛来する可能性がある場合には、政府としては、24時間いつでも全国瞬時警報システム（Ｊアラート）を使用し、緊急情報を伝達します。

Ｊアラートを使用すると、市町村の防災行政無線等が自動的に起動し、屋外スピーカー等から警報が流れるほか、携帯電話にエリアメール・緊急速報メールが配信されます。なお、Ｊアラートによる情報伝達は、国民保護に係る警報のサイレン音を使用し、弾道ミサイルに注意が必要な地域の方に、幅広く行います。

Ｊアラートによる情報伝達では、弾道ミサイルが日本に飛来する可能性があると判断した場合に、まず、弾道ミサイルが発射された等の情報を伝達し、避難を呼びかけます。

「屋外にいる場合は、近くの建物（コンクリート造り等頑丈な建物が望ましいですが、頑丈な建物がなければ、それ以外の建物でも構いません）の中、又は地下（地下街や地下駅舎などの地下施設）に避難して下さい。」

「屋内に居る場合には、すぐに避難できるところに頑丈な建物や地下があれば直ちにそちらに避難して下さい。それができなければ、できるだけ窓から離れ、できれば窓のない部屋へ移動して下さい。」

その後、弾道ミサイルが日本の領土・領海に落下する可能性があるとして判断した場合には、続報として直ちに避難することを呼びかけます。屋外に居る場合には、直ちに近くの建物の中、又は地下に避難して下さい。また、近くに適当な建物等がない場合は、物陰に身を隠すか地面に伏せ頭部を守ってください。

屋内に居る場合には、できるだけ窓から離れ、出来れば窓のない部屋へ移動して下さい。

その後、弾道ミサイルが日本の領土・領海に落下したと推定された場合には落下場所についてお知らせします。

「続報を伝達しますので、引き続き屋内に避難して下さい。」

弾道ミサイルが日本の上空を通過した場合には、他に追尾しているミサイルやミサイルから分離した落下物が我が国の領土・領海に落下する可能性がないことを確認した後、弾道ミサイルが通過した旨の情報をお知らせします。

「引き続き屋内に避難する必要はありませんが、不審な物を発見した場合には、決して近寄らず、直ちに警察や消防などに連絡して下さい。」

このほか、日本まで飛来せず、領海外の海域に落下した場合には、その旨を続報としてお知らせします。

「引き続き屋内に避難する必要はありませんが、不審な物を発見した場合には、決して近寄らず、直ちに警察や消防などに連絡して下さい。」

弾道ミサイル発射時の行動について

弾道ミサイルは、発射から極めて短時間で着弾します。ミサイルが日本に落下する可能性がある場合は、Jアラートを活用して、防災行政無線で特別なサイレン音とともにメッセージを流すほか、緊急速報メール等により緊急情報をお知らせします。

メッセージが流れたら、直ちに以下の行動をとってください。

【屋外に居る場合】

近くの建物の中か地下鉄などに避難する。

(注) できれば頑丈な建物がのぞましいものの、近くになれば、それ以外の建物でも構いません。

近くに適当な建物がない場合は、物陰に身を隠すか地面に伏せ頭部を守る。



【屋内にいる場合】

できるだけ窓から離れ、できれば窓のない部屋へ移動する。

弾道ミサイル発射時の行動について

内閣官房国民保護ポータルサイト

〔武力攻撃やテロなどから身を守るために〕から抜粋

弾道ミサイルによる攻撃の場合、発射前に弾着地域を特定することがきわめて困難であり、短時間での着弾が予想されます。このため、我が国に影響があり得る弾道ミサイルが発射されたときは、市町村から原則として特別なサイレン音を使用した防災行政無線により、発射情報と、領域内に落下する可能性がある場合はその旨を、関係する地域に対して、緊急に伝達することとしています。併せて、テレビ、ラジオや緊急速報メールなども通じてこれらの情報を伝達します。

弾頭の種類（通常弾頭であるのか、核・生物・化学弾頭であるのか）を着弾前に特定するのが困難であり、弾頭の種類に応じて、被害の様相や対応が大きく異なります。

攻撃当初は屋内へ避難し、その後、状況に応じ行政機関からの指示に従い適切に避難しましょう。屋内への避難にあたっては、近隣の堅牢な建物や地下街などに避難しましょう。

弾道ミサイル落下時の留意事項について (一般的事項)

ミサイルの部品等が落下した場合
ミサイルは、弾頭を運搬するため、ロケット推進により飛翔する役目を負っています。

ロケット推進に必要な燃料には、人体に影響を及ぼす強い毒性を持つものがあるため、決して近づくことなく落下地点から離れるようにして下さい。風下を避けて風向きとなるべく垂直方向に避難しましょう。

また、移動する際は、ハンカチ・タオル等で口・鼻を覆いリスクの軽減に努めて下さい。

自身の安全を確保した場合、落下に関する情報を、警察、消防に連絡して下さい。

ミサイルの部品等が落下した場合、周辺の住民の安全を確保するため市は影響を受ける地域の住民を避難させることがあります。この場合は、市の誘導に従って整齊とした行動をすることに留意して下さい。

避難にあたっては、家は施錠し、現金・通帳等の貴重品を携行するとともに季節にあった服装で避難して下さい。比較的長期にわたることも考えられますが、食料等の生活に必要な最低限のものは市が準備しますので過度に多くの物を携行することは避けてください。

弾道ミサイル落下時の留意事項について (一般的事項)

通常弾頭の場合

通常弾頭とは、弾頭の金属の外殻の内側に火薬を充填したもので、その分量により爆発時の被害の範囲は変化しますが、爆発点の周辺は爆発に伴う爆風及び外殻の金属破片の飛散により人体・建造物等に重大な損傷・損壊をもたらします。特に、爆発地点直近にいた場合は身体の安全維持は困難となることが考えられます。

爆発による爆風・金属破片の飛散は、一時的なもので爆発後の被害以降、新たに重大な被害をもたらすような効果は持続しませんが、金属破片については、落下直後は高温であり且つ形状は鋸歯形で、素手で触ると火傷や裂傷を負います。弾道ミサイル弾着後に、破片等を発見した場合は、決して近寄らないようにしましょう。

建物（できれば頑丈な建物）の中や地下に避難し、爆風・破片による窓ガラスの飛散による被害を避けるため、努めて窓ガラスから離れるようにして下さい。カーテンを閉めることにより被害の拡大を防ぐことも考えられます。やむを得ない場合は少しでも周囲より低い場所で伏せる等により被害を軽減できることもありますので最大限の努力をすることを心がけてください。

また、爆発せずに不発弾となって地中に埋まる、地上に露出する等の景況がありますが、爆発の危険がありますので発見した場合には速やかに、警察や消防又は市役所に連絡して下さい。

弾道ミサイル落下時の留意事項について (一般的事項)

核弾頭の場合

核弾頭とは、弾頭に核爆発を起こす装置を搭載したもので、爆発すると、当初は主に核爆発に伴う熱線、爆風などによる物質の燃焼、建物の破壊、放射能汚染などの被害が生じ、その後は放射性降下物（放射能をもった灰）が拡散、降下することにより放射線障害などの被害が生じます。

閃光や火球が発生した場合には、失明する恐れがあるので見ないで下さい。

とっさに遮蔽物の陰に身を隠しましょう。近隣に建物があれば其の中へ避難しましょう。地下施設やコンクリート建物があればより安全です。

上着を頭から被り、口と鼻をハンカチで覆うなどにより皮膚の露出をなるべく少なくしながら、爆発地点からなるべく遠く離れましょう。その際、風下を避けて風向きとなるべく垂直方向に避難しましょう。

屋内では、窓閉め・目張りにより室内を密閉しできるだけ窓のない中央の部屋に移動しましょう。

屋内に地下施設があれば地下へ移動しましょう。

屋外から屋内に戻ってきた場合は、汚染物質を身体から取り除くため、衣類を脱いでビニール袋や容器に密閉しましょう。その後、水と石けんで手、顔、体を良く洗いましょう。

安全が確認できるまでは、汚染された疑いのある水や食物の摂取は避けましょう。

被ばくや汚染の恐れがあるため、行政機関の診断を受けましょう。

市民の安全を確保するため、市は住民の避難勧告を発することがあります。この場合、ミサイルの部品等が落下した場合の行動と同様に沈着・冷静に避難行動をして下さい。

弾道ミサイル落下時の留意事項について (一般的事項)

化学弾頭の場合

化学剤は、その特性により、神経剤、びらん剤、血液剤、窒息剤などに分類されています。一般に地形や気象などの影響を受けて、風下方向に拡散し、空気より重いサリンなどの神経剤は下をほうように広がります。

特有のにおいがあるもの、無臭のものなど、その性質は化学剤の種類によって異なります。人から人への感染こそありませんが、比較的早く、目の充血、咳込み、かゆみなどの症状が現れます。

化学剤存在の特徴

弾着点附近に「草木等に液滴が付着している。」「昆虫・小動物の死骸がある。」等、明らかに普段と違う光景が見られる。

対処要領

口と鼻をハンカチで覆いながら、その場から直ちに離れ、外気から密閉性の高い屋内の部屋または風上の高台など、汚染のおそれのない安全な地域に避難しましょう。

屋内では、窓閉め、目張りにより室内を密閉し、できるだけ窓のない中央の部屋に移動しましょう。

2階建て以上の建物であれば、なるべく上の階へ避難しましょう。

汚染された服、時計、コンタクトレンズなどは速やかに処分する必要がありますが、汚染された衣服などをうかつに脱ぐと、露出している皮膚に衣服の汚染された部分が触れるおそれがあります。特に頭からかぶる服を着ている場合には、はさみを使用して切り裂いてから、ビニール袋に密閉しましょう。その後、水と石けんで手、顔、体をよく洗いましょう。

安全が確認できるまでは、汚染された疑いのある水や食物の摂取は避けましょう。

行政機関の指示などに従い、医師の診断を受けましょう。

化学剤傷病者への治療は一刻を争います。あやしいと感じたらすぐに周囲に知らせる、速やかに警察や消防に通報するといった迅速な対応をとった方が、その後の対処も早くなり、救命率の向上につながります。